**大腸内視鏡（大腸カメラ）検査についての説明・同意書**

この説明書（兼同意書）を事前によくお読みいただき、内容をご確認のうえ、必要事項のご記入とご署名欄に署名をお願いします。当院では、日本消化器内視鏡学会専門医が責任をもって検査にあたります。ご不明な点がありましたら遠慮なくご質問ください。

通院治療中のかたは主治医から内視鏡検査を受けることについて許可を受けていますか？

該当するほうに〇印をお願いします。（はい　　・　　いいえ）

検査当日の朝は絶食で来院してください。水・スポーツ飲料・お茶は構いません。

血圧・喘息・心臓のお薬は、検査当日朝服用してください。

＜糖尿病で治療中の方へ＞

糖尿病のお薬は、服用しないでください。インシュリンの自己注射はしないでください。

【検査の目的】

大腸内視鏡検査は、直接、大腸の中を観察し、炎症、潰瘍、癌などの病気を見つけるために行います。レントゲンと注腸製剤による注腸透視検査に比べて、小さな病変を発見しやすく(早期癌など)、生検(病変の一部3mm程度を採取)で病理学的な診断が可能です。

【検査の準備、方法】

当院では、検査前日から食事制限（専用の食事も取り扱っております）を行います。

①前日の夜に下剤（錠剤）を飲んでいただきます。さらに、検査当日にご自宅で早朝から下剤（液体）を飲んでいただきます。

②検査当日は受付にお越しいただき、便の性状を確認致します。もしまだ腸管がきれいになっていない場合は追加で下剤を服用してもらうことがあります。

③検査前に点滴の管を留置します。腸管の動きを抑える薬と希望により鎮静剤を投与し、内視鏡を肛門から挿入します。早い方では10分程度で検査が終了しますが、ポリープの切除などを行う場合は20分前後かかる方もいます。

10㎜を超える大きなポリープや癌が疑われる病変が見つかった場合は当院での切除ができませんので、総合病院に紹介致します。

大腸内視鏡検査で過去につらい思いをした方、初めて内視鏡検査を受ける方は鎮静剤（静脈投与し、一時的に眠った状態にする薬）を使用することでほとんどの場合は楽に検査を受けることができます。検査が終わった後は1時間ほど別室で休憩して頂きます。

過去に歯医者などでうけた麻酔薬のアレルギーがある方は申し出てください。

【検査の合併症】

(1)大腸内視鏡検査、治療全体の重篤な合併症： 検査後に腹部の張りや軽い腹痛などが残ることがありますが、通常は数日以内に消失します。ただし、重篤な合併症が0.078％（1000人に1人以下）に生じるとされています。観察のみでは0.012％と報告されており、それに関連した死亡が0.00082%（10万人に1人以下）と報告されています。

 　出血：生検をした場合、通常は自然に止血しますが、止血が不十分なときは、内視鏡的に止血処置を

　 する場合があり、入院が必要となることもあります。

　 穿孔：大腸は壁が薄く蛇行しているところがあるため、内視鏡で傷をつけてしまう

　 ことがあります。このような損傷で消化管に穴が開くことがあり、緊急手術が必要になることもあります。

(2)検査前に使う薬剤による副作用：前処置の下剤による腸閉塞および腸管穿孔が0.00001%以下の確率でおこるとされています。便秘が強い方、腸閉塞の既往がある方は申し出てください。検査を中止する場合があります。鎮静剤等の薬によるアレルギー反応でショックをおこすことがあります(0.0037%)。

(3)そのほか、検査後の腹部膨満感、吐き気、めまいなどの比較的軽微な偶発症が起こり得ます。これらは検査後の休憩により自然に改善するものがほとんどですが、持続する場合には必要に応じて点滴などの対応を取ります。休憩中は看護師によりしっかりと状態を観察いたします。

【検査後の注意】

・飲水・食事は、検査終了後よりとって下さい。生検された方は、飲酒や刺激物を1～2日は避けて下さい。病変を認めた方には個別に指示致します。

・鎮静剤を使用した方は、検査後に1時間ほど休んでいただく必要があり、さらに当日の車・バイク等の運転はできません。また、鎮静剤により注射時に血管痛、まれに血管炎をおこすことがあります。

・義歯のある方は安全のために検査の前にはずしていただいています。ぐらついている歯はまれに取れることがありますので、あらかじめお申し出下さい。

・締め付けのきつい下着類（コルセット・腹巻など）は身に着けないでください。

【質問記入欄】

大腸内視鏡（胃内視鏡）検査についての説明を十分理解した上で検査に同意します。

□　　大腸内視鏡検査を希望する。

□　　鎮静剤を希望する。　　　　　　　　　　　　　　　　　 □　　　鎮静剤を希望しない。

 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　氏　名 ：

 説明日　　　　年　　　月　　　日

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　説明者